

# 平成二十年度 入学試験問題

## 国語

### 第二回

【注意事項】

- 一、試験時間は五〇分です。(八時五〇分～九時四〇分)
- 一、問題は一ページから六ページまでです。
- 一、解答はすべて解答用紙の解答らんに入入してください。
- 一、解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

# 1 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

時間はそれ自体では、生成の原因というよりむしろ、消滅の原因だろう。

四季の繰り返しを念頭に置いた、ゆるい、円環的な時間観の代表とも思われていた古代ギリシャ人の中の、しかも哲学者代表と目されているアリストテレスの命題です。自分の移り行きが、自分の子である他の個体に引き継がれて、また同じことが繰り返されていくという、それが彼の時間観でした。

その彼に、こういった命題があるのです。もちろん、とてもひかえめな(？)、レトリックの効いた表現ですが、でも、言いたいことははっきりしています。時間は消滅の原因だということです。時間が経つにつれて、物は滅び去ってしまうのです。時間は一直線に滅びに向かって進んでいるのです。

観察の哲学者であった彼には、やはり見えていたのです。観察対象の個体は、時が経つにつれて滅びていくのです。桜の花だって、今年の花は散って、それでおしまいです。

私という個人、あるいは個々の生き物、個々の事物にとつては、時間は滅びに一直線なのです。時間は返ってくるのではなく、不可逆だということになります。

こうなると、だいたい生きること嫌気がさすはずですが、失敗は近似値的以外には、取り返せないし、しかも行き着く先は、老齢で、滅びです。時間の意地悪さを感じるのはこのときでしょう。

## 同じ川の流れに二度は入れない。

とはいえ、ここでもう一つ、時間の意地の悪い面が見えてきます。この句は前にもあげましたが、万物流転を説いたと言われるヘラクレイトスのものです。

古今東西、時の流れは川の流れにたとえられます。さらさらと昼夜を問わず流れていく川の流れです。川の流れは、人が止まれと言っても止まってくれないのです。それこそ一時もです。左足を水に入れ、あわてて右足を入れてみても、さっきの川の水は、だから「さっき」という一時はもう

25

20

15

10

5

(ア) ガンゼンから流れ去っているのです。

時間もそうです。だれが何と言おうと、無表情に、さらさらと流れていくのがその本性です。この止められないという性が時の底意地の悪さのもう一つの面です。滅びに向かうのがいやで、いやだいやだと言っているうちにも、時は流れ、私はなすすべもなく、<sup>(1)</sup> 持ち時間を減らし、滅びに近づいていつているのです。

止まってくれない川ですから、川にかかわるものたちが、早く進んで、とか、遅く流れて、とか祈っても、それに耳など貸すわけありません。ただ淡々と、すべてのものに同じに流れすぎていくのです。

たしかに、日本時間とか現地時間という言葉はよく耳にします。いまニューヨークは夜の六時で、とか、朝のワイドショーでやっています。でも、それは、時間につける名の違いなだけです。夏だったら日本時間七時を、ニューヨークでは前日の一八時と呼ぶだけの話です。だからこそ、時差一三時間と言い、換算が可能になるのです。換算とは、数字の上での翻訳のことです。翻訳ができるということは、いろいろニュアンスの違いで問題は起きますけれど、でも、あるところまでは人間すべてに理解可能な点があるということでもあります。

すべての人が同じ時間の上に乗っているという大前提があるからこそ、推理小説で一番大事なポイントになるのがアリバイ証明なのです。<sup>(2)</sup> ビュタグラスが同じ日の同じ時刻に、クロトンとメタポントイオンという異なる場所に現れたということが、彼の神性証明になるのです。時間さえ、自分の思うまま、自分のところだけ遅くとか早くとか流れさせることができれば、(名前だけ) 同じ時間に、二か所にいるのは、<sup>(1)</sup> カンタンなことです。

もちろん、時間について考えた人の中には、時間はその個人個人のその時々の状態に合わせて、早く進むね、と感じられたり、遅いじゃない、と思えたりするものだと、<sup>(7)</sup> シュチュウウする人もいます。たしかに、夢中でゲームしているときには、一時間も一〇分にしか感じられないでしょうし、<sup>(1)</sup> 退屈な授業のときは、三〇分が一時間にも思えます。

でも、それは、みんなに、<sup>(1)</sup> ツウヨウする (3) 「一時間」を知つての上での感想でしょう。一時間という決まりがあつてこそ、それが一〇分にしか思えなかったとか、二時間にも感じられたとかいうことになるのです。要するに、個人個人の夢中程度などには無関心に、川は流れているということです。

60

55

50

45

40

35

30

(時間の動きを)測ることのためには(魂の)存在はぜんぜん必要ではない。だが測らなくても、(時間の動きは)それが実際にあるだけの分量であるのだから。

★プロティノスという人が言った言葉ですが、これは巧みに、時間と個人(ここでは魂という言葉で表されていますが)の関係を言い表しています。時間の進行は、個々人の(4)退屈とか無我夢中とかとは関係ないということなのです。

人が人生について考えるのは、事がうまく行かなかったときです。うまく行っている間は、明日の(オ)ヤクソクとか、部活とか、あるいは、メールとかに夢中ですから、人生などを思う暇はないのです。

試験だって、すらすら問題が解けているときは、何も時間のことなど考えないでしょう。でも、幾何の証明がなかなか思いつかなくて、さっきから考えている、はっと気づくと、腕時計の針は試験終了一〇分前を指している。こんなとき、(5)時間よ、止まれとまでは行かなくても、時間よ、い

ま少しゆっくりと流れてと祈りたくなるでしょう。でも、時はそんなことはしてくれません。まったく無表情に、いつもと同じに流れていってしまいます。それで、私はとうとう一問はまったく手付かずのまま残してしま

まったということになるのです。(6)時間が第二の意地悪です。とはいえ、時間が多様ないやなやつでも、私たちはその時間と付き合

いながら、その時間の中で生きていくしかないのです。  
(左近司祥子『哲学のことば』)

80

75

70

65

- ★生成……物が生まれること。
- ★円環的……円のようにもともにもどってくる。
- ★目されている……認められている。
- ★アリストテレス……古代ギリシャの哲学者。
- ★命題……真偽の判定ができる文。
- ★レトリック……文章上の技法。
- ★不可逆……逆にもどれないこと。
- ★近似値……真の値に近い値。
- ★ヘラクレイトス……古代ギリシャの哲学者。
- ★ピュタゴラス……古代ギリシャの哲学者。

★クロトンとメタポンティオン……どちらも地名。

★神性……神の能力、性質があること。

★プロティノス……古代ギリシャの哲学者。

★幾何……図形の性質や、ある図形と他の図形の関係を研究する数学の分野の一つ。

★証明……そのことがらが、論理的に正しいことを、数式を使って明らかにすること。

問一——線(1)「持ち時間を減らし、滅びに近づいていっているのです。」とありますが、この内容をわかりやすく二十字以内で言いかえなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問二——線(2)「ピュタゴラスが同じ日の同じ時刻にクロトンとメタポンティオンという異なる場所に現れたということが、彼の神性証明になるのです。」とありますが、時間に関して人と神とのちがいはどのような点にあるといえますか。本文の表現を用いて四十五字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問三——(3)に最もふさわしい言葉を次のア、エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 意外な    イ 特別の    ウ 平凡な    エ 普通の

問四——線(4)「退屈とか無我夢中とか」とありますが、これによって起きているのは、どのようなことですか。本文の表現を用いて三十字以内で答えなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問五——線(5)「時間よ、止まれとまでは行かなくても、時間よ、いま少しゆっくりと流れてと祈りたくなるでしょう。」とありますが、人はどのような時に、そう祈りたくなるのでしょうか。そのことを示す箇所を本文から十五字以内で抜き出しなさい。

## 問六

——線(6)「時間の第二の意地悪」とありますが、第一の意地悪とはどのようなことですか。最もふさわしい説明を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生きることによって疲れた人々は、時間の流れがそのまま消滅につながるものとしか見えなくなってしまうこと。

イ ある物が減ってしまったとしても、また別のものが次々にあらわれるので、その存在が忘れられてしまうこと。

ウ あらゆる物にとって、時間が過ぎるのは、消滅に近づくことを意味するということ。

エ すべての物にとって、時間の流れは一直線であり、その早さを変えられないこと。

## 問七

——線(ア)～(オ)のカタカナを漢字に書き直しなさい。

## 問八

本文の内容に合うものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 時間は返ってくることはなく、また時間の進行は止められず、もう少しゆっくり進んで欲しいと願ってもどうにもならないため、上手につきあっていかなければならない。

イ 時の流れは、繰り返すこともなく、また止めることもできないため、人間はたとえ一刻でも自分にとって意味のあるものにしてほしい、流れに逆らい、もがき苦しむ。

ウ 時間の持つ意地の悪さとは、世界中の誰もが経験するものであり、これを解決するには、個々人の願望とは全く関係ないという、時間に対する正しい認識が必要である。

エ 時間の本質とは、四季のように繰り返されるということであるが、しかし、花があっけなく散ることからいえば、時間の流れは、物

によって異なるという見方も可能である。

## 2 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

げんは病気がちの母の代わりに、弟碧郎の弁当作りなど家事のほとんどをやっていた。母は亡くなった実の母の後に来た父の後妻で、姉弟のほんとうの母ではなかった。

けさも母は持病に悩まされて床を出て来なかった。このごろはほとんど毎朝げんが御飯をたいて、弟にもたせせ自分もたべ、手早く跡かたづけをして弁当を詰める、そして大慌てで出て来る順序にきまつていた。げんも碧郎も学校までは一時間以上かかるのだから、よほど早く家を出なくては遅刻する。いつも大概すれすれの滑りこみなのである。雨の降りだしたのはお弁当を詰めていて気がついた。そこへしたくをした弟が出て来て、

「あ、雨か、いやだなあ。洋傘をおしてあるだろうなあ」と納戸へ取りに行った。その傘は質のいい洋傘だったが多少古かった。だから、中学生になつておとなものの洋傘をささせるとなつて碧郎専用にしたのだが、弱つていた骨がたちまち折れた。修繕した。そして又折れた。碧郎が母に骨直し屋へ出してくれといつて頼んでいるのを、げんはそばで聞いて知っていた。が、そのつぎの雨のとき、それはほうりつ放しになつていった。しかたがなく彼が骨の折れたままさして行つたが、帰りには折れていた骨の隣をもう一本折つて来た。母は男の子の乱暴な扱いかたを批難したが、碧郎は口返答をして、「川から吹きあげられると折れた処がばくばくするから、力学的にその隣も折れちまうんだ。ぼくのせいじゃない」と不平をいった。気まずい空気だった。そしてけさ、まだ二本の折れはそのままになつていった。碧郎は玄関の上り框に腰をかけて弁当を鞆に入れてのろろしている。「ねえさん、きょうのおかず何?」「よくないのよ。また鯉節しかないの。」

「……なんとなくつままないな、傘もだめだし弁当も鯉節だし。」げんは、母が昼間傘屋へ行く時間がなかったのか、忘れたのか、それともこのあいだの碧郎の口返答が気に障ったのか、あるいは修繕費も苦しいのかと考へたり、そういう間にも今ここへ起きて来てくれれば、まさか知らん顔もしていまい、しまつてある父の洋傘を出してくるだろうと思つたりして、自分の弁当を詰めていた。こまかい優しい雨であつても、歩くところが十

25

20

15

10

5

か見つからないうちに、玄関から弟がいう。「いいよ、ねえさん。傘なんかいらぬよ、捜してくれなくなつていいよ。うっかりおとうさんのなんか持ちだしてあとでうるさくなるといやだもの。」<sup>(2)</sup> いるもんか、濡れて行くよ。「じゃ、あたしの蛇の目どう? あたし、番傘さして行く。」「いやだあ女の傘なんか。模様がついてるもの、笑われるよ。……傘のないやつ、なんか一人もいないんだ。でもいいよ、傘なんかどぶへたつたこんじゃつたつていうから。」——止めるひまがなくてももう裏門の鈴が鳴った。げんはすぐ自分も包みを抱えて飛び出したが、すでに大ぶ開きができていた。強がりをいつても、雨のなかを前かがみに行く後ろ姿はみじめだった。ちつとも強そうには見えなかった。濡れてみて、きつとなお腹が立ってきたろうし、もしかしたら泣きべそを掻いて虚勢を張っているのではないかと思う。

げんは昼にお弁当をあけた。傘のせいでけさは鯉節さえ自分の分はたっぷり掻いているひまがなく、醤油のまだらな御飯はまずかった。貧乏ゆえにおかずが悪いのだというより、明らかにそれは心の遣つてなさから生じる不親切なまずさだった。やりてんぼうな、ぞんざいな弁当だった。しかしそれもしかたがないのである。げんは放課後うちへ帰るとすぐ、夕がたの炊事にかかる。材料は母がおおかた見計らつて、御用聞へいつけておいてくれるからそれでいいが、晩酌をする父に向くようなものと家族のお惣菜をつくる。跡かたづけを済ませれば九時になる。母が翌朝の弁当のお菜を考えに入れ忘れればそれまでなのだ。九時から買ひものに行く勇氣はないし、宿題をするのさえ九時からでは睡くなつていて。通学距離が遠すぎるのと、家事をひきうけていることが苦しかった。いまに始まつたことではないから自分だけなら海苔弁当も鯉節弁当も気にしないが、この春から碧郎の分が殖えると気が疲れた。わけの通らない気がねや申しわけないような感じがあつて、まずいお菜の日は弟に対していい気もちでなかった。その上に、<sup>(3)</sup> けさの傘のようなことがあると、昼食の箸を持つてちらつと、無事にたべているかな、と思いやらないわけには行かない。

弟は下着まで濡れとおつて、しみをこしらえていた。「いつまで傘修繕してくれないか、黙つて見ているんだ」という。笑えないでげんは聴いていく。けれどまたたつた十七歳である。若いからぐつとしみついてくる感傷もあるが、また若いからこそそんなに執念深く思いつめてもいない、次から次の事がらへと軽く移つて行くこだわりのなさがある。傘も弁当もきょうの場合を心配してはらはらもするけれど、そのきょうのことが無事に済ん

55

50

45

40

35

30

60

でしまえば、ほっとしてあすのことには思い及ぼさないのんきなところがあつた。げんはそこが利口なようでは、かな娘なのだとわかれていた。

翌日は上天気だつた。きょうだいは仲よく連れだつて出かける。雨に洗われた桜若葉はほのかにかぐわしい。(5) げんは、きのうにひきかえてきようはいいことがありそうに思えて嬉しい。いいことになりそうな種なんてなんにもなくても、天気がよくて空気が爽やかなら、それだけでもう十分に、きょうのいいことを期待するのである。

「きのうあんた橋のところであつて笑つたわね、あれどういふわけなの、機嫌がなおつた知らせなの？」

弟はちよつとてれた様子でいう。「そうじゃないよ。ねえさんがかわいそうだつたんだよ。」

「なぜ？」

「なぜつて、とぼとぼしてゐたからださ。」

「あら、あたしとぼとぼしていた？」

「うん、そう思つたんだけど、後ろ向いてみたら汽車みたいにごおつていつた。」★ ちよこざいなことをいう碧郎である。汽車のようだつたとは何事か。(7) 第一ねえさんがかわいそうとか、とぼとぼしてゐるとか、よくもいえたものだ。とはいふものの姉は弟を、弟は姉をよく了解していることがこれで証明されたにひとしいのである。げんはその日一日、学校にいて弟を思いださなかつた。

(幸田 文『おとうと』)

80

75

70

65

★洋傘……………ふだん使う、西洋風のかさ。

★上り框……………家の上がり口の縁にわたした横木。

★蛇の目……………地色に、白いふとい輪の形のもようをつけたかさ。

★番傘……………竹を割つてつくつたほねに和紙をはり、油をひいた雨がさ。

がさ。

★やりてんぼうな……………なげやりな、いかげんな。

★御用聞……………得意先などに注文を聞きまわる商人。

★晩酌……………家での夕食のとき、酒を飲むこと。

★お惣菜……………家庭で食べる、ごくふつうのおかず。

★ちよこざいな……………生意気な。

問一 — 線(1)「また鯉節しかないの。」とありますが、なぜおかずが鯉節しかないのですか。本文の表現を用いて三十字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問二 — 線(2)「いるもんか、濡れて行くよ。」とありますが、げんは、このようなことをいう碧郎の態度を、どのような態度だと思つていますか。本文の表現を用いて十字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問三 — 線(3)「けさの傘のようなこと」とありますが、どのようなことですか。本文の表現を用いて四十五字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問四 — 線(4)「はらはら」とありますが、これはどのような心情を表していますか。次のア、エの中から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 腹を立てている。      イ 涙をながしている。  
ウ 気をもんでいる。      エ がっかりしている。

問五 — 線(5)「げんは、きのうにひきかえてきようはいいことがありそうに思えて嬉しい。」とありますが、これはげんのどのような性格を表していますか。本文の表現を用いて四十字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

— 線(5)「げんは、きのうにひきかえてきようはいいことがありそうに思えて嬉しい。」とありますが、これはげんのどのような性格を表していますか。本文の表現を用いて四十字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

## 問六

——線(6)「とぼとぼしてる」とありますが、  
I このような様子を表す四字熟語を次のア～オの中から一つ選び、  
記号で答えなさい。

II 一～四の意味にふさわしい四字熟語を後にあげるア～オの中から

一つずつ選び、記号で答えなさい。

一 得意になってほこらしい様子。

二 たがいに気持ちがあうこと。

三 大勢の人がまごついて混乱すること。

四 自分の都合の良いようにすること。

(四字熟語)

ア 意気消沈しやうちん

イ 我田引水がでん

ウ 意気揚揚ようよう

エ 右往左往

オ 意気投合

## 問七

——線(7)「第一ねえさんがかわいそうとか、とぼとぼしているとか、  
よくもいえたものだ。」とありますが、この時のげんの碧郎に対する  
気持ちを五十字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マス  
用いること)

## 問八

本文の内容に合うものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答  
えなさい。

ア げんは傘かさを直してもらえない弟のことを考えるとかわいそうでな  
らなかつたが、翌日になっても怒いかりがこみあげてきてみじめな気  
持ちになり、弟のことを思い出すよゆうなどなかつた。

イ げんは前日は傘のことや弁当のことを考えると弟がかわいそうで  
ならなかつたが、自分と弟がたがいに思いやり理解し合っている  
とわかり、翌日は弟のことを心配する必要がないと思つた。

ウ げんは厳しい母のいいつけに従い、自分のことは犠牲ぎせいにしても一  
生懸命けんめい弟の世話をしてきたし、反抗期はんかうきに入ったえらそうな、弟の  
態度に対しても姉らしく温かく受け入れようとしてきた。

エ げんは学習時間がとれず、成績も下がったことから学校生活に不  
安を感じ始め、家事すべてをまかされてることが負担になり、  
何とかこの生活を改善しなければと考え続けていた。